

都市再生整備計画 事後評価シート
浮島レイクサイド地区

平成24年3月

茨城県稲敷市

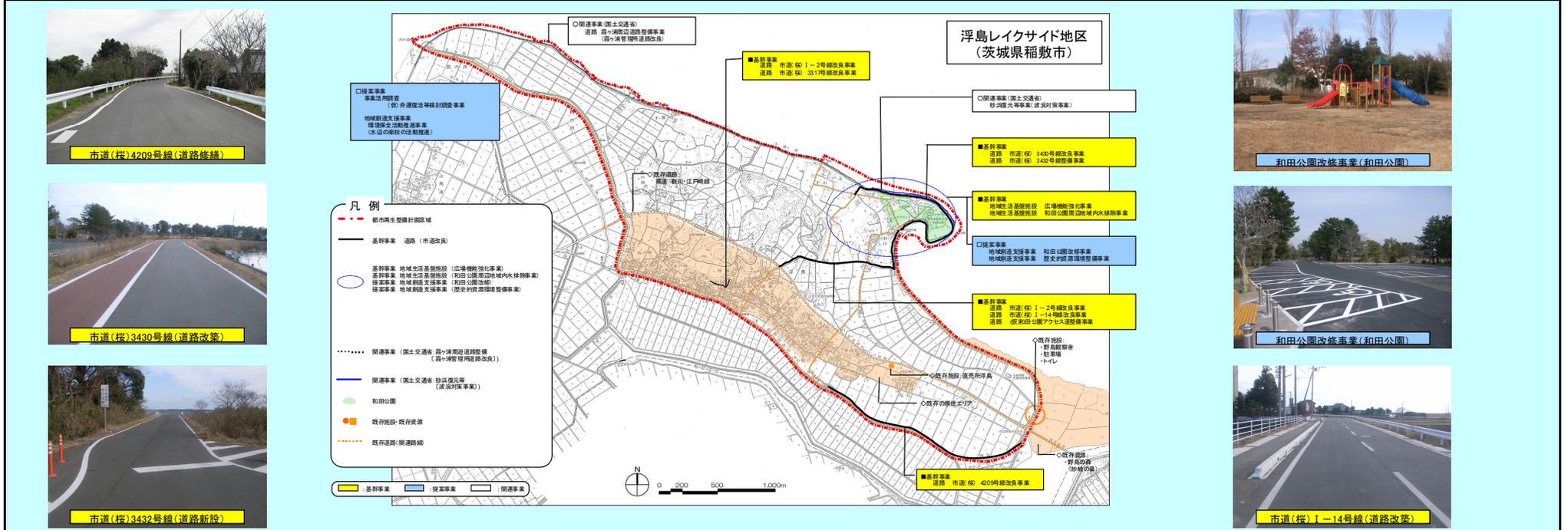
様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 茨城県 | 市町村名 | 稲敷市 | 地区名 | 浮島レイクサイド地区 | 面積 | 663.1ha | | | | | | |
|---------------------------------------|--|-----------------------|---|---|------------|--|---------|---|---------|------------|---|--|---------|
| 交付期間 | 平成19年度～平成23年度 | 事後評価実施時期 | 平成23年度 | 交付対象事業費 | 675百万円 国費率 | 0.4 | | | | | | | |
| 1) 事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 | | | | | | | | | | |
| | 基幹事業 | | 道路(市道(桜) I-2号線、市道(桜)3317号線、市道(桜) I-2号線、市道(桜) I-14号線、(仮)和田公園アクセス道) | | | | | | | | | | |
| | 提案事業 | | 地域創造支援事業(和田公園改修事業、環境保全活動推進事業)、事業活用調査(仮)舟運復活等検討調査事業) | | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | 基幹事業 | | 地域生活基盤施設(市道(桜) I-2号線他(情報板)) | | 別事業により実施のため事業取り止め | | 影響なし | | | | | |
| | | 基幹事業 | | 高次都市施設(センター施設:観光交流センター) | | 代替機能を有する既存施設の活用と事業内容等の精査による事業の見直しにより削除 | | まちづくりの目標と関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 | | | | | |
| | | 提案事業 | | 地域創造支援事業(浮島小学校耐震診断調査事業) | | 事業内容等の精査による事業の見直しにより削除 | | まちづくりの目標と関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 | | | | | |
| | | 提案事業 | | まちづくり活動推進事業(「(仮)夢の浮島プロジェクトチーム」の組織運営事業) | | 組織設立に向け地元との合意形成に努めたが、予算づけまでには到らず事業中止 | | まちづくりの目標と関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 | | | | | |
| | 新たに追加した事業 | 提案事業 | | まちづくり活動推進事業(観光・交流情報提供事業) | | 市のホームページ等で同様の情報を発信しているため取り止め | | まちづくりの目標と関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 | | | | | |
| | | 基幹事業 | | 道路(市道(桜)3430号線、市道(桜)3432号線、市道(桜)4209号線) | | 周遊できる道路体系、安全・安心な道路環境を確保するために追加 | | まちづくりの目標と関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 | | | | | |
| | | 基幹事業 | | 地域生活基盤施設(地域防災施設:和田公園周辺地域) | | 地域の内水排除の機能強化を図るため追加 | | まちづくりの目標と関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 | | | | | |
| 基幹事業 | | 地域生活基盤施設(広場:浮島運動広場等) | | 防災拠点としての機能強化を図るため追加 | | まちづくりの目標と関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 | | | | | | | |
| 提案事業 | | 地域生活基盤施設(緑地:景観緑地創出事業) | | 浮島らしい景観を有した緑地の創出を図るため追加したもの、震災により撤入路等の確保ができないため削除 | | まちづくりの目標と関連するが、指標及び数値目標は据え置く。 | | | | | | | |
| 提案事業 | | 地域創造支援事業(歴史的資源環境整備事業) | | 地域文化を継承する歴史的な資源の有効利用を図るため追加 | | 影響なし | | | | | | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | 平成19年度～平成23年度 | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | - | | | | | | | |
| | | 変更 | - | | | | | | | | | | |
| 2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | | モニタリング | 評価値 | | | | | |
| | 指標1 | 霞ヶ浦等を活用した観光・交流施策への満足度 | % | 41 | H17 | 50 | H23 | | 43.9 | △ | あり なし ● | 道路拡幅整備や浮島運動広場等の広場機能強化等により、生活環境の改善等が図られたが、震災の被災に伴い、供用中止となり便益享受を体感できない結果となり目標値にはいたらなかった。 | 平成24年7月 |
| | 指標2 | 「水辺の楽校」への参加者数 | 人/年 | 120 | H18 | 300 | H23 | | 346 | ○ | あり なし | 交付金事業を契機に「水辺の楽校」に基づいた環境教育の場と各種プログラムが展開され、参加者数の向上が図られた。 | |
| | 指標3 | 浮島レイクサイド地区への来訪者数 | 人/年 | 55,292 | H17 | 70,000 | H23 | | 82,558 | ○ | あり なし | 交付金事業を契機に、アクセス道路整備等が実施されたことにより、浮島全体のアクセシビリティや魅力が向上し、来訪者数の向上が図られた。 | 平成24年5月 |
| 指標4 | 地域住民の災害等対策の満足度 | % | 43.7 | H17 | 50 | H23 | | 53.9 | ○ | あり なし | 道路の舗装整備や拡幅整備、歩道設置等をはじめ、防災機能強化を行うことなどにより、災害等対策に対する満足度の向上が図られた。 | 平成24年7月 | |
| 3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | | 数値 | | 目標達成度※1 | 1年以内の達成見込み | 効果発現要因(総合所見) | フォローアップ予定時期 | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | | モニタリング | 評価値 | | | | | |
| | その他の数値指標1 | | | | | | | | | | | | |
| | その他の数値指標2 | | | | | | | | | | | | |
| その他の数値指標3 | | | | | | | | | | | | | |
| 4) 定性的な効果発現状況 | 「水辺の楽校」プログラムとして、「野外キャンプ活動」「親子で流しそらめんにチャレンジ」「夏休み木工教室と清掃活動」等の多様なイベント等が実施され、交流機会の拡大と参加者の増加につながっている。 | | | | | | | | | | | | |
| 5) 実施過程の評価 | 実施内容 | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | | | |
| | モニタリング | | | なし | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | |
| | 住民参加プロセス | | | 市民主体のまちづくり団体の設立 | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった ● | | | | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | | | 市民主体のまちづくり団体の設立及び自己運営 | | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった ● | | | | | |

様式2-2 地区の概要

浮島レイクサイド地区(茨城県稲敷市) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | 従前値 | 目標値 | 評価値 |
|---|-----------------------|-------------------|-----------------|-----------------|
| ◆多様な親水活動と水郷文化とのふれあいによるレイクリゾート「夢の浮島」の復活◆ ①地域活性化の起爆剤としての夢の浮島の中心であった和田公園の魅力アップによる観光・交流空間の形成 ②環境教育システムの構築による貴重な自然環境の保全・育成・活用の促進 ③安全・安心な生活・周遊環境の提供と水郷文化を活かした都市・農村の交流機会の拡大 | 霞ヶ浦等を活用した観光・交流施策への満足度 | 単位: % 41 | H17年度 50 | H23年度 43.9 |
| | 「水辺の楽校」への参加者数 | 単位: 人/年 120 | H18年度 300 | H23年度 346 |
| | 浮島レイクサイド地区への来訪者数 | 単位: 人/年 55,292 | H17年度 70,000 | H23年度 82,558 |
| | 地域住民の災害等対策の満足度 | 単位: % 43.7 | H17年度 50 | H23年度 53.9 |
| | | 単位: H | H | H |



まちの課題の変化

- ・和田公園改修事業等の総合的なリニューアルを図り霞ヶ浦の水辺空間を活かせる環境づくりに努めるとともに、水辺の楽校を実施するなど、霞ヶ浦の水辺空間・資源を活かした魅力ある活動メニューを提供でき、霞ヶ浦での魅力を再発見・発信ができた。
- ・和田公園へのアクセス道路等の整備・改修を実施することで、浮島地区全体の周遊化や和田公園への快適な来訪が可能になった。
- ・和田公園等の利用者数の増加に伴い、幹線道路沿道における民間直売所等が増えており、地域経済の活性化に寄与している。
- ・道路や排水事業の実施により生活環境の向上が図られるとともに、和田公園のような広場を再整備することにより、災害時の防災拠点として機能しうる場所の整備ができた。

■残された未解決の課題

- ・東日本震災により霞ヶ浦湖畔や周遊道路、和田公園園庭も大きな被害を受け、利用出来ない状況が続いており、早急な復旧が必要である。また、水辺の楽校等に関連し、魅力ある多様な体験活動の場やメニューの提供が出来ない状況にある。霞ヶ浦舟運の継続的な運行も課題となっている。
- ・和田公園キャンプ場等の利用者の増加に伴う施設利用マナー向上の啓発と受入体制の充実が必要である。
- ・国・県・市がハード面の充実を図ることで、交流機会の拡大とともに、観光事業への地元受入体制強化が必要であり、人材育成を始め地元の理解、協力が必要である。市民協働により地域づくりの重要性は増している。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・和田公園及び周辺地区の交流機能の維持・強化や霞ヶ浦の自然資源の保全と創出を積極的に推進する。
- ・浮島地区の回遊性の更なる向上及び霞ヶ浦沿岸都市との連携強化による広域観光の推進を図る。
- ・地元住民に対し、霞ヶ浦の持つ資源の魅力と観光交流の必要性についてより一層の理解を促し、当該地区の特性を活かした都市・農村交流を検討・実施する人材育成や仕組みづくりを再検討し、市内屈指の魅力を持つ霞ヶ浦の資源を活用した地域活性化を推進する。
- ・霞ヶ浦湖畔や周遊道路、和田公園園庭も大きな被害を受けており、国、県等との連携と協力により支援を受けながら早急な復旧・復興を図る。
- ・和田公園キャンプ場等の施設利用者の利用マナーの向上を図る。